

研究員の眼

成長投資枠、年初一括派が増加か？ ～2025年1月の投信動向～

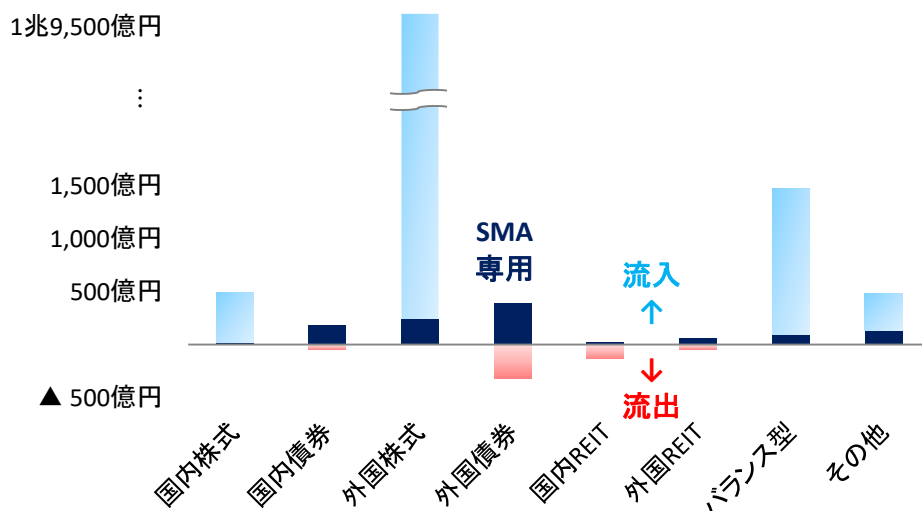
金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式に過去最大の資金流入

2025年1月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、1月は外国株式ファンドに1兆9,600億円の資金流入があった【図表1】。12月の1兆1,100億円から8,500億円増加し、これまで過去最大であった2024年7月の1兆5,400億円も大きく上回った【図表2】。

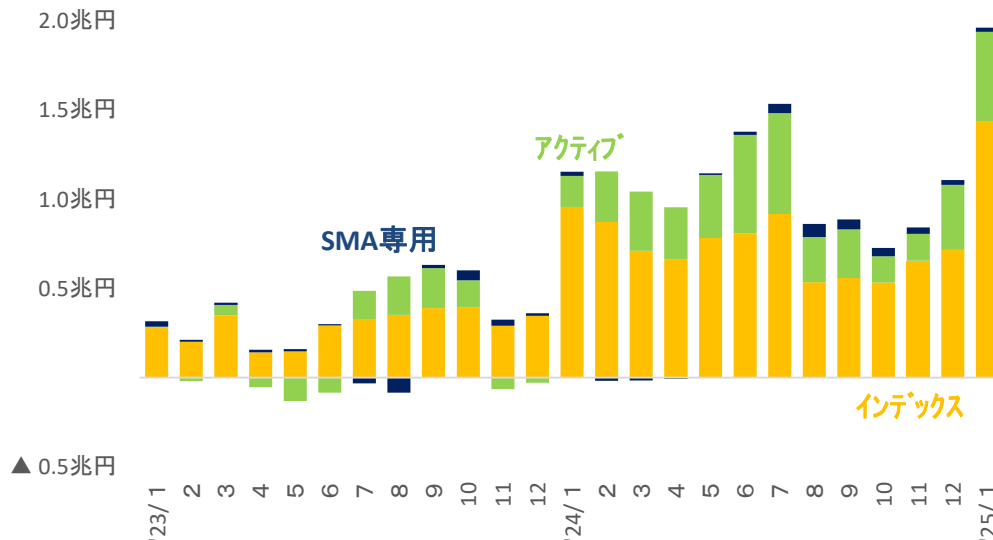
外国株式ファンドの販売を牽引したのは、インデックス型であった。一般販売されているインデックス型の外国株式ファンド（黄棒）に1兆4,300億円の資金流入が1月にあった。12月の7,200億円から倍増し、初の1兆円超えとなった。ただ、アクティブ型の外国株式ファンド（緑棒）もインデックス型ほどではないが、一般販売されているものに5,000億円の資金流入があった。12月の3,600億円から増え、2024年6月、7月に迫る規模であった。

【図表1】 2025年1月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類などを用いてファンドを分類。

【図表2】外国株式ファンドの資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。2025 年1月のみ推計値。

成長投資枠からの買付が復活か

1 月は、NISA口座、特に成長投資枠からの外国株式ファンドの買付が大きかったものと思われる。新NISA 1 年目の 2024 年は、成長投資枠からの買付は商品によらず年初に集中していた。新NISA 2 年目を迎えた 2025 年も、年初に成長投資枠から外国株式ファンドの買付があったようだ。個別で 1 月に資金流入が大きかったファンドを見ても、新NISA対象の外国株式ファンド（太字）、特にインデックス型（赤太字）の資金流入が 12 月から急増していることからそのことが見て取れる【図表 3】。

外国株式ファンドの資金流入からは、2025 年 1 月に前年 1 月以上の買付がNISA口座からあったことが示唆される。NISAの口座数は、2023 年末の 2, 124 万から 2024 年 9 月末に 2, 508 万口座になっている。2024 年 1 年間だと 400 万以上、20%も増えた。それに伴い買付も増加していたと考えられる。ただ、外国株式ファンドの資金流入は 1 年前と比べて口座の増加数以上に増えており、成長投資枠の活用方法が前年から変化していることもありそうである。

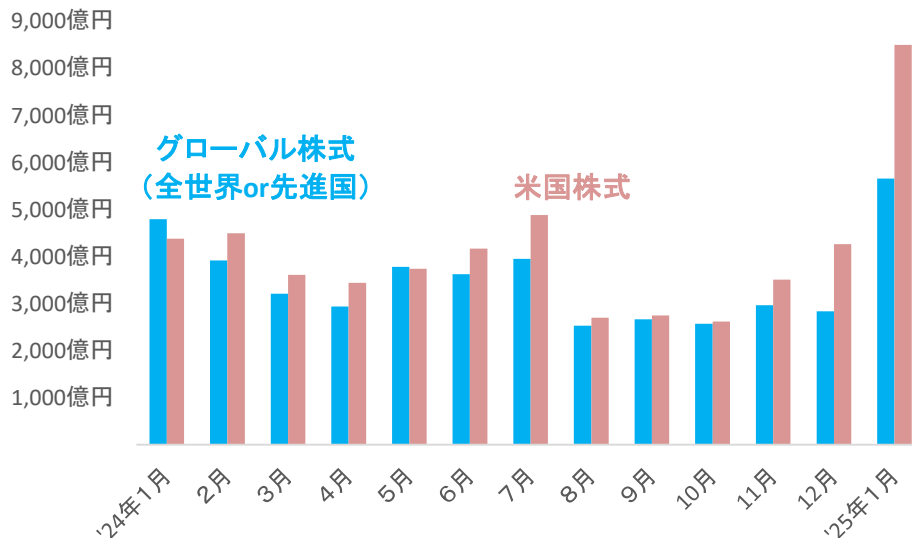
元々、成長投資枠をどのように活用するか、具体的には買付を時間分散するか年年初一括で行うか意見が分かれている。どちらも一長一短あるが、2024 年が年年初一括の方が良い結果となったこともあり、2025 年は年年初一括で成長投資枠を活用している人が 2024 年より増えている可能性も考えられる。

【図表3】2025 年1月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	12月の 流出入	1月の推計 純流入	純資産 1月末時点
1位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UAM	2,007億円	4,050億円	6兆8,779億円
2位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UAM	1,818億円	3,758億円	5兆4,814億円
3位	iFreeNEXT FANG+インデックス	大和AM	423億円	1,097億円	5,222億円
4位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・B	1,236億円	1,054億円	3兆4,461億円
5位	楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド	楽天投信	339億円	599億円	4,708億円
6位	インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ	807億円	546億円	1兆8,185億円
7位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・B	378億円	406億円	1兆6,991億円
8位	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBI AM	148億円	393億円	2兆 731億円
9位	東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	東京海上AM	238億円	343億円	919億円
10位	フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D(毎月・予想分配・ヘッジ無)	フィデリティ投信	306億円	342億円	1,793億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

【図表4】 投資地域別のインデックス型外国株式ファンドの資金流入



(資料) Morningstar Direct より作成。2025 年1月のみ推計値。SMA 専用ファンドは除外。

さらに1年前と比べて、米国株式により傾斜していることも見て取れる。1月の一般販売されているインデックス型の外国株式ファンドへの1兆4,300億円の資金流入のうち、8,500億円は米国株式もの(赤棒)であった【図表4】。「eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)」いわゆる「オルカン」を含むグローバル株式もの(青棒)にも、1月に5,700億円の資金流入があり、米国株式ものと同様に前月から倍増した。ただし、前年1月の4,800億円からだと900億円の増加と4,000億円以上増えた米国株式ものとは比べて小幅であった。新NISA2年目は、インデックス型の米国株式ファンドを年年初一括で買付けた人が増えたのかもしれない。

国内株式から外国株式への変更も？

また、1月はバランス型ファンドにも1,500億円の資金流入があった。12月の500億円から1,000億円増加し、2024年に最も資金流入が大きかった7月と同規模であった。国内株式ファンドは500億円の資金流入に転じた。

国内株式ファンドについては全体で見ると流入超過に転じたが、一般販売されているアクティブ型に限ると流出額こそ200億円と少額かつ12月の900億円から鈍化したが、流出超過であった。前年1月は国内株式が大きく上昇したにも関わらず、一般販売されているアクティブ型の国内株式ファンドには1,000億円の資金流入があった。その後も9月まで資金流入が続いたが、10月以降は資金流出が続いていたが、2025年に入っても止まらなかった。

2024年は年初の1月、2月や4月、8月の国内株式の下落時にNISA口座、特に成長投資枠から国内株式ファンドの買付がそれなりにあったようだ。しかし、2025年1月は前年1月と比べると課税口座などから利益確定売りが出にくい状況だった。それでも資金流入が小規模であったため、買付が少なかったことが推察される。新NISA1年目に国内株式ファンドを買い付けていた人の中から、2年目は外国株式ファンド、特に米国株式ファンドに変更した人も一部で出て可能性がある。

なお、内外の債券、REITのファンドについては、一般販売に限るとすべて1月に資金流出していた。特に外国債券ファンドと国内REITファンドは、12月から資金流出が鈍化したものの、流出額が100億円を超え、まとまった売却が出ていた様子である。

一部のテーマ型の外国株式ファンドが高パフォーマンス

1月は、金価格の上昇が追い風となり金関連の外国株式ファンド（赤太字）が高パフォーマンスだった【図表5】。ちなみに金で運用しているファンドの基準価額も1月に上昇しており、収益率は為替ヘッジしているもので6%台、為替ヘッジしていないものは4%台となっていた。

その他にもテーマ型の外国株式ファンドの中には、1月に高パフォーマンスをあげているもの（青太字）があった。

【図表5】2025年1月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	1月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 1月末時点
1位	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンAコース	ブラックロック	12.9 %	46.0 %	77 億円
2位	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり・年2回決算型)	日興AM	10.6 %	53.7 %	83 億円
3位	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり)	日興AM	10.4 %	53.8 %	117 億円
4位	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンBコース	ブラックロック	10.2 %	51.5 %	76 億円
5位	HSBC ブラジル オープン	HSBC	10.1 %	-13.5 %	163 億円
6位	ブラックロック・ゴールド・ファンド	ブラックロック	10.1 %	50.3 %	136 億円
7位	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	日興AM	9.6 %	-0.4 %	199 億円
8位	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)	三菱UAM	9.5 %	45.7 %	68 億円
9位	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(年2回決算型)	日興AM	9.5 %	-0.5 %	36 億円
10位	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(年2回決算型)	三菱UAM	9.5 %	45.6 %	22 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2025年1月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。